

わがまち Sai発型さいたまの幕末

今年は慶応3年(1867年)の大政奉還から、ちょうど150年目の年にあたります。今回は終末期の徳川幕府を支え、司馬遼太郎から勝海舟と共に「明治国家誕生のための父たち」と称された小栗上野介忠順と、大宮区にある小栗一族ゆかりの普門院をご紹介します。

小栗忠順は徳川家の直参旗本の小栗忠高と妻邦子の長男として、文政10年(1827年) 6月23日に江戸駿河台(現在の東京都千代田区神田駿河台)の小栗

方延元年(1860年)、33歳の とき、日米修好通商条約批准書 交換のため、正使新見正興、副



小栗上野介忠順公肖像

使村垣範正らとともに、遣米使節としてアメリカ軍艦のポーハタン号に乗って渡米します。このとき、勝海舟を艦長とした咸臨丸も同行しています。ワシントンのホワイトハウスで条約批准書を交換した後、当時問題となっていた小判の海外濫出を解決するため、フィラデルフィアの造幣局にて、為替レートの交渉も行いました。通貨の交換比率の改定にまでは至りませんでしたが、分析実験によって、比率の不公平さを証明しました。

アメリカで進んだ文明を見聞して、刺激を受けた 忠順は、帰国後、フランスの指導を得て、横須賀製 鉄所の建設に取り掛かります。横須賀製鉄所は、造 船や船の修理に加えて、あらゆる工業製品を扱うこ とを目指した総合工場でしたが、設備のほとんどが未完成のまま大政奉還を迎えました。その建設は、明治政府に引き継がれ、名前を明治4年(1871年)に横須賀造船所、明治36年(1903年)に横須賀海軍工廠と改め、日本工業発展の基盤となりました。

忠順はその他にも、洋式陸軍制度の導入による軍政改革、「横浜仏蘭西語伝習所」の設立、「兵庫商社」の設立、外国人居留者のための「築地ホテル」の建設発案など、数多くの施策を主導します。

幕府の様々な役職を歴任した忠順ですが、慶応4年(1868年)1月、鳥羽伏見の戦いで薩摩藩・長州藩を中心とする新政府軍に旧幕府軍が敗れた際、恭順の意を固めた徳川慶喜に徹底抗戦を主張して怒りを買い、役職を解かれてしまいます。

忠順は江戸を離れ、知行地である上野国権田村(現在の群馬県高崎市倉渕町)で、穏やかな生活を送ります。しかし、それも東の間のものでした。反乱を企てたとして新政府軍に捕えられた忠順は、何の取り調べもないまま、家臣とともに烏川の河原で斬首されてしまいます。同年閏4月6日*、41年の生涯でした。

※慶応4年は閏年で4月が2度あり、あとの4月を指します。



普門院と小栗忠政一族

大宮区大成町にある普門院は、応永33年(1426年) そうとうしゅう に創建された曹洞宗の寺院です。

当時の領主であった金子駿河守大成が月江正文禅 師を領地に招いて、自分の居館を禅庵に改めたのが 普門院の始まりだと伝えられています。普門院周辺 の地域は、大成の名にちなんで「大成村」と呼ばれ るようになり、現代に残る「大成町」の地名の由来 とも言われています。



▲普門院 本堂 近くには普門院幼稚園があり、昼間は子どもたちの 元気な声が響きます。

徳川家康が関東を治めるようになった頃、戦で多大な活躍を見せた側近の小栗忠政に、大成村の領地を与えました。以降、普門院に小栗忠政一族が祀られることになりました。

忠順も、役職を罷免された後に、小栗家の由緒ある槍や具足を、先祖である忠政にゆかりのある普門院に預かってもらうために、家臣の武笠祐左衛門を向かわせています。また忠順自身も、江戸の屋敷を引き払って上野国に向かう途中、普門院に参拝したことが、『小栗日記』に記されています。



▲大成領主小栗忠政一族の墓 昭和41年(1966年) 9月3日、市指定史跡に指定されました。



忠順の首塚伝説



斬首された忠順の首級の行方には諸説あり、普門院にも忠順の首塚と伝えられる墓があります。

武笠祐左衛門の次男であった銀之介は、獄門台に晒されていた忠順の首級を夜中に盗み、ひそかに普門院の大猷和尚のもとへ届けます。首級を受けとった大猷和尚は、墓を立ててこれを普門院に葬りました。それが忠順の首塚として、現代に伝わっています。

銀之介は明治維新を境に、名を銀介と改め、三室 村(現在のさいたま市緑区三室)の助役や村長を務め、村の発展に大きく貢献しました。



▲小栗忠順の首塚と伝えられています。

参考資料



- ●『小栗上野介忠順と幕末維新-『小栗日記』を読む-』
 - 高橋敏/著 岩波書店 2013
- ●『小栗上野介-忘れられた悲劇の幕臣-』村上泰賢/著 平凡社 2010
- ●『幕末維新を「本当に」動かした10人』松平定知/著 小学館 2010
- ●『小栗上野介をめぐる秘話』河野正男/著 群馬出版センター 2003
- ●『普門院≪大宮≫ さきたま文庫51』 早川智明/著 さきたま出版会 1997
- ●『大宮の文化財Ⅲ-天然記念物・史跡・旧跡 歴史資料-』

大宮市教育委員会/編 1987

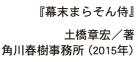
- ●『埼玉県地名誌-名義の研究-(改訂新版)』韮塚一三郎/著 北辰図書 1977
- ●『大宮市史 第2巻 古代·中世編』

大宮市役所 1971

●『大宮市史 第5巻 民俗·文化財編』

大宮市役所 1969

本棚





◆『幕末まらそん侍』

(土橋章宏/著 角川春樹事務所 2015年)

黒船の来航により、風雲急を告げる幕末の世。安政2年(1855年)、安中藩主・板倉勝明は、藩士たちを鍛えて異国の襲撃に備えようと、すべての家臣に「遠足」を申しつけます。それは、安中城内から碓氷峠の熊野神社までの七里余り(約30キロ)の中山道を走るものでした。

想いを寄せる姫をめぐって恋敵との対決に燃え、「どんな手を使ってでも一番になってみせる!」と息巻く、がいまっがたがたがたりゆうご 遠足の機に乗じて脱藩し、初恋の相野と江戸へ上ろうと企てる石井政継。「藩主に乱心の気あり」と、出来心で藩を揺るがす文を江戸へ送る隠密の唐沢甚内など、家臣たちはそれぞれの事情を抱えて走ります。熊野神社の宮司も巻き込んだ幕末マラソン大会の、勝利の行方は?

日本のマラソンの始まりといわれる「安政遠足」を題材にした、軽快なスポーツ時代小説です。少しずつ繋がっていく家臣たちの物語を、ぜひ最後まで見届けてください。

◆『レンズが撮らえた幕末の日本』

(岩下哲典・塚越俊志/著 山川出版社 2011年)

幕末の動乱期、かつてない「確かな証拠」となる貴重な記録が残されました。「写真」による記録です。カメラのレンズは、幕末という時代に生きた人々の容姿や風俗、建物、商売、あらゆるものをとらえて、写真として克明に記録しました。

国を憂い、奔走した武士たち。混乱する社会情勢の中、 生命を賭けて海外へ渡航した使節団や留学生たち。本書 ではその肖像を中心に、当時の空気を伝える街道や宿場 町、城と城下町、船と港などの風景を記録した貴重な写 真を数多く収録しています。

教科書に名の載る有名な武士をちの、気骨あふれる往時の姿はもちろん、床屋や傘張り職人の仕事風景、片肌を脱いで化粧をする女性の姿など、名もなき市井の人々の暮らしぶりも写真は伝えます。ピラミッドとスフィンクスを背景に居並ぶ侍をちをおさめた、珍しい1枚は必見です。

幕末日本の状況をビジュアルで理解し、時代の息吹を 感じるのにうってつけの1冊です。

◆『幕末銃姫伝 京の風 会津の花』

(藤本ひとみ/著 中央公論新社 2010年)

「私は、どうして女に生まれてきたのでしょう」

裁縫も気働きもうまくできず、自慢できるものといえば腕力のみ。女として不出来な自分は、この先どう生きていけばよいのかと悩む 12歳の八重に、兄・覚馬は「砲をやれ」と勧めます。八重は砲術を習得することに自身の新たな道を見出しました。

時は幕末、八重の住む会津の地を治める藩主・松平容保が京都守護職に任じられたのを契機に、会津藩は非情な時代の荒波の中に呑まれていきます。やがて朝敵の汚名を着せられた会津に、新政府軍の砲火が向けられた時、城と会津人としての誇りを守るために、八重は銃を手に取り、立ち上がるのでした。

2013年大河ドラマの主役ともなった銃姫・山本八重の、会津開城に至るまでの前半生を描いた作品です。女性が思うように生きられない時代にあって、自分の信じる道を貫き、果敢に前を向いて生き抜こうとする八重の、凛々しい生きざまが胸に迫ります。

明治以降の八重の姿を描く『維新銃姫伝 会津の桜 京都の紅葉』もあわせてどうぞ。

◆『知識ゼロからの幕末維新入門』

(木村幸比古/監修 幻冬舎 2008年)

「日本を今一度、せんたく致し申し候」薩長同盟を成立させた立役者・坂本龍馬、薩摩藩の名家老・小松帯力、江戸城無血開城に尽力した勝海舟など、幕末・維新の時代には多くの志高く、有能な人材が活躍しました。その中から主な人物 47 人を取り上げ、略歴や功績、人間関係、名言や後世に伝わるエピソードを交えて紹介します。

長州藩出身で討幕派の高杉晋作は、面長の顔立ちで、「乗った人より馬が丸顔」という歌が作られたこともあったそうです。また、大村益次郎は大の豆腐好きで、食事や酒の肴にも豆腐を欠かさず食べ、客人にも豆腐ばかりを出したと伝わっています。 幕末・維新の大人物たちが身近に感じられるエピソードのほか、時代背景や各藩の動き、「公武合体」「尊王攘夷」などの主義思想についても、豊富なイラストや図を用いて、分かりやすく解説します。

幕末から明治維新にかけての激動の時代を理解し、読み解くための入門書です。「文章ばかりの本は苦手」「歴史の本は難しそう」という方も気軽に読める1冊です。





今年で生誕110周年を迎えた石井桃子さん。

1907年に埼玉県北足立郡浦和町(現さいたま市)に生まれ、児童文学作品や絵本などを日本の子どもたちに広めた翻訳家です。

ブルーナの「うさ子ちゃんの絵本シリーズ」、ポターの「ピーターラビットの絵本」など、翻訳した本の数は150冊以上にのぼります。

そんな石井桃子さんの最初の翻訳作品が、A・A・ミルンの『クマのプーさん』です。

1933年のクリスマスイブ、友人の犬養家に招かれた彼女は、プレゼントにもらった英語の本を読んでほしい、と子どもたちにせがまれます。それが『The House at Pooh Corner』――『プー横丁にたった家』の原書との出会いでした。

横」にたった家』の原書との出会いでした。 たちまちプーの世界に魅了された彼女は、病床にあった親友と、日本の子どもたちのため

この翻訳を皮切りに、石井桃子さんは多くの海外の児童文学作品や絵本を精力的に翻訳し、日本の子どもたちに 手渡していくことになるのです。

に、プーを少しずつ訳し始めます。そして1940年、岩波書店から『熊のプーさん』として出版しました。

さいたま市図書館では、『クマのプーさん』をはじめとする石井桃子さんの翻訳作品や、作品研究・評伝などの資料も所蔵しています。中央図書館では、11月21日から12月8日まで「石井桃子さんの仕事と浦和ゆかりの地案内」の特別展示をおこなうほか、さいたまゆかりコーナーに石井桃子さん関連の常設展示もありますので、ぜひ足をお運びください。



特別整理休館(臨時休館)のお知らせ

さいたま市図書館は、下表の日程で、順次休館になります。ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

- ●桜図書館・・・・・・・・・平成29年11月27日(月) から平成29年12月 1日(金) まで
- ●大宮東図書館…平成29年11月28日(火) か5平成29年12月 1日(金) まで
- ●大宮図書館·・・・・・平成29年12月 4日(月) から平成29年12月11日(月) まで
- ■馬宮図書館・・・・・・平成29年12月12日(火) から平成29年12月15日(金) まで
- ●中央図書館・・・・・・平成30年 1月15日(月) から平成30年 1月19日(金) まで
- ●美園図書館・・・・・・平成30年 1月22日(月) か5平成30年 1月25日(木) まで
- ●桜図書館大久保東分館・・・平成30年 1月23日(火) から平成30年 1月25日(木) まで
- ■武蔵浦和図書館…平成30年 1月29日(月) から平成30年 2月 2日(金) まで

はつめいする

『プー あそびを

はつめいする』

A.A.ミルン/ぶん E.H.シェパード/え

岩波書店

- ●与野南図書館…平成30年 1月30日(火) から平成30年 2月 2日(金) まで
- ●与野図書館・・・・・・平成30年2月5日(月)から平成30年2月9日(金)まで
- ●与野図書館西分館・・・平成30年 2月13日(火) から平成30年 2月15日(木) まで
- ●春野図書館・・・・・・平成30年 2月19日(月) から平成30年 2月23日(金) まで
- ●北図書館・・・・・・・・・平成30年 2月26日(月) から平成30年 3月 2日(金) まで

詳しくは、さいたま市図書館HPをご覧ください。

年末年始 休館のお知らせ

- ●12月29日(金) から 1 月 4 日(木) まで全館休館となります。
- ●休館中は返却ポストをご利用ください。

編集:さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行:さいたま市図書館

http://www.lib.city.saitama.jp/ 携帯電話用 http://www.lib.city.saitama.jp/m/ (下のQRコードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321 馬宮図書館 625-8831 与野図書館 853-7816 桜 図 書 館 858-9090 与野南図書館 855-3735 東浦和図書館 875-9977 橋 分 館 625-4319 大久保東分館 853-7100 美園図書館 764-9610 春野図書館 687-8301 西 854-8636 図書館 669-6111 分 館 大宮東図書館 大宮図書館 643-3701 岩 槻 図 書館 757-2523 宮原図書館 662-5401 688-1434 桜木図書館 649-5871 七里図書館 682-3248 岩槻駅東口図書館 758-3200 武蔵浦和図書館 844-7210 大宮西部図書館 664-4946 片柳図書館 682-1222 岩槻東部図書館 756-6665 南浦和図書館 862-8568

事務局:中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100

★★編集後記★★ 普門院を舞台にした井伏鱒二の作品『普門院 さん』があります。こちらもあわせてご覧下さい。

次回発行予定: 3月15日(年3回発行)



もっと身近に、 もっとしあわせに

